

福島県沖地震津波に関して現地調査を行いました(続報) (2016/12/14-15)

テーマ：福島県沖地震津波・津波痕跡調査・養殖筏被害のヒアリング調査
場所：宮城県多賀城市・東松島市

平成 28 年 11 月 22 日午前 5 時 59 分に、福島県沖を震源とする地震 (M7.4) と津波が発生しました。災害科学国際研究所では、11 月 26 日 (土) に実施した調査 (11 月 29 日に災害科学国際研究所アクティビティレポートにて報告済み) に引き続き、今次津波の浸水被害と養殖筏被害の実態を把握するために、当研究所のサッパシー・アナワット准教授、ローバー・フォルカ助教 (災害リスク研究部門) と山下啓助教、林晃大助手 (地震津波リスク評価 (東京海上日動) 寄附研究部門) が調査チームを結成し、津波痕跡調査と被害実態のヒアリングを実施しました。

今回の調査は、12 月 14 日に多賀城市、15 日に東松島市に、以下の内容で実施しました。

●多賀城市：津波河川遡上の痕跡調査・ヒアリング (サッパシー・アナワット、山下啓、林晃大)
大成・あおみ・深松建設工事共同企業体砂押川外河川災害復旧工事作業所周辺において観測された津波の河川遡上について、ヒアリングを実施しました。作業所から避難された方による目撃情報、撮影された写真と護岸部分の高さから、同作業所周辺では T.P.+1.2 m の津波が来襲していたことを確認しました。

●東松島市：宮戸島における津波痕跡調査・ヒアリング (ローバー・フォルカ、山下啓、林晃大)
宮戸漁協宮戸西部支所では、管轄域における海苔養殖筏の被害状況についてヒアリングを実施しました。宮戸西部支所によりますと、管轄域内で海苔養殖筏が計 40 台の被害が確認されたほか、筏の設置方法や寸法といった情報を収集しました。大浜漁港および海水浴場では、11 月 22 日に撮影された津波痕跡が収められた写真と照らし合わせて津波痕跡高の測量を行ない、遡上高や浸水高を取得しました。そして、大浜海水浴場における最大遡上高が T.P.+4.3 m であったことがわかりました。また、ドローンを使用して、大浜漁港周辺の詳細な地形情報を取得しました。

今後、調査より得られたデータの解析を進め、様々な情報を国内外に発信していく予定です。

謝辞：本調査は、大成・あおみ・深松建設工事共同企業体砂押川外河川災害復旧工事作業所、宮城県漁業協同組合宮戸支所および宮戸西部支所のご協力のもと実施されました。こちらに記して感謝の意を申し上げます。



多賀城市における調査の様子



東松島市における調査の様子

文責：林晃大、山下啓 (寄附研究部門)

サッパシー・アナワット、ローバー・フォルカ (災害リスク研究部門)